



兵庫県支部設立5周年記念

第5回ユニセフのつどいを開催しました

ジュダスさん(南アフリカ共和国)に母国の音楽やダンスを教えてもらって
いっしょにステップを踏む子どもたち

世界の子どもたちのために

Wish

空想民族音楽「SAYAN」の演奏に
参加者もスタッフも一体に...



Vol.20 (2007年春)

ユニセフ兵庫ニュース

第5回 ユニセフのつどい を開催

【2007年3月10日(土)】

会場の照明が一瞬暗くなり...、淡いライトに浮かび上がったステージの上に、いつのまにか会場内に響き始めた音楽に合わせて手拍子をしながらカンガ姿のスタッフが登場。子どもでただ一人タンザニアスタディツアーに参加した大塚広輝君(9歳)の「Jambo!」の掛け声とともに、「兵庫県支部設立5周年記念 ユニセフのつどい ~世界のともだちと心をつなごう~」が始まった。

兵庫県支部設立5周年の2006年度は、タンザニアスタディツアーに向けての連続学習会からツアーの実施など、アフリカカラーの一年だったが、そのまとめとしてアフリカ紹介(タンザニア/スーダン/南アフリカ共和国)に始まり、アジア・アフリカのお菓子や空想民族音楽「SAYAN」も登場し、国際色豊かな楽しいつどいとなった。またユニセフ報告として、平林国彦氏(ユニセフ東京

事務所次席代表)から「1000万人の子どもたちの命~わたしたちに何ができるのか~」のテーマで、医師としての立場からの思いも交えて世界の子どもの現状やユニセフの取り組みについての報告があり、大変心に残る講演となった。会場には、支部活動に縁の深い皆さんやこの5年間でお世話になった方々もゲストとしてお迎えし、参加者は約170名。最後には会場のほぼ全員がSAYANの音楽で立ち上がり輪になってつながり、午後4時30分、竹本会長の「お礼のことば」で「つどい」は盛会のうちに終了した。

世界のともだちと心をつなごう



交流

レントパネル展を同時開催



「南アフリカに周囲を囲まれた小さな王国・レントを訪れたアグネス大使」HIV/エイズの影響は.....。その写真を見る小学生のみなさん。

しました。3月10日、25日

学習班はおおいそがし!

学習会は、学校の年間のスケジュールもあるのが、3学期に集中して要請を受けることが多いようです。学習チームの限りある人材のなかで、行ける人をやりくりするのも、チームリーダーの苦勞するところ...。でも、子どもたちの笑顔や真剣な瞳に出会えるのを楽しみに、あれこれ資料を探し準備を重ねて出かけていきます。水がめ運びは、子供たちが最もはりきって参加してくれるワークショップです。七松小学校での学習会

学習会一覧表(2006年11月~2007年3月)

訪問日	訪問先	対象	人数
11月12日	こころ豊かな人づくり500人委員会	メンバー	50
11月27日	姫路市立八木小学校	小6	23
11月28日	福崎町立高岡小学校	小5・6	25
12月1日	明石市立魚住小学校	小6	150
12月1日	神戸市立六甲アイランド高校	高3	60
1月25日	尼崎市立七松小学校	小6	98
1月25日	尼崎市教職員国際理解研究会	教員メンバー	20
1月29日	西宮市立用海小学校	小1~小3	381
1月30日	西宮市立用海小学校	小4~小6	283
1月31日	西宮市立香炉園小学校	小6	110
2月2日	姫路ライオンズクラブ	メンバー	30
2月4日	ガールスカウト兵庫第83団	小学生+大人	12
2月8日	神戸市立灘小学校	小6	45
2月19日	コープこうべ須磨レイノースクール	受講生	10
2月21日	西宮ESD研修	メンバー	25
3月2日	西宮市立神原小学校	小5	66
3月4日	ガールスカウト兵庫第83団	小学生+大人	12
3月6日	神戸市立小部小学校	小6	111
3月7日	高砂市立中筋小学校	小6	85
3月13日	丹波市立黒井小学校	小6	43
3月15日	兵庫県立国際高校	高1・2	240
3月19日	神戸映画サークル協議会	メンバー	15



オープニング



タンザニアツアー報告



アフリカ紹介
左/バシールさんと家族(スーダン共和国)
右/ジュダスさん(南アフリカ共和国)



募金贈呈
伊藤ハム(株) 神戸市職員労働組合、コープこうべ
コープこうべ労働組合、コープこうべ定時職員協議会



ユニセフ報告
平林国彦さん(ユニセフ東京事務所)による報告

活動発表



いなみ野学園
「いなみ野祭」での募金活動の報告



南あわじ成人式実行委員会メンバー
成人式典での募金活動の報告



ハートフルコンサートの会
ユニセフチャリティーコンサートの活動紹介



神戸市立灘小学校
6年生のみなさん、「平和」学習の取り組みについて発表



清里ハイランドパーク
「ハーブ摘み取り祭」での募金活動



神戸市立鷹取中学校
「トライやる・ウィーク」でのユニセフ活動の体験発表



ガールスカウト兵庫第83団
「エイズ」学習の取り組みを発表

参加者の感想

楽しかったことは...

アフリカからの人々の自国紹介、案内等楽しかった。小、中学生にも何ができるかを思っていたら、ユニセフの募金に参加して下さっていることを知り、うれしくなりました。(70代女性)
SAYANの演奏でみんなで輪になっておどる所が楽しかった。こんなふうの世界もそうなるほしいと思ったしそうあるべきやと思った。(10代女子)
みんなで、知らない人でもいっしょに手をつないでおどった事(10代女子)

もっと知りたいと感じたことは...

世界の子どものことをこの目で確かめたい。(10代男子)
日本人の海外での仕事ぶりの紹介、日本からの募金による効果の発表。(60代女性)

世界の情勢をもっと子供達に正しく伝えたい。(70代女性)
難民の人たちを助けるためにユニセフは他にどんな事しているのか。(10代女子)
今まで戦争のことばかり調べていたので、次はその国の文化や習慣を知りたい。(10代女子)
ユニセフは147の国も援助しているから、ほかの国の状況を知りたい。(10代女子)

ご自由にどうぞ...

今日学んだことは学校で生かせたらと思います。(10代男子)
世界中の子供達がみんな元気にすごせる様に募金をしていきたい。(10代女子)
より近いユニセフ、より大きいユニセフである事がわかりました。(50代女性)
今私たちの学校では、ユニセフの事について勉強しているので、今日学んだ事を1人でも多くの人に広めていきます。(10代女子)



スタッフ感想・反省(抜粋)

参加している方々が一体となった素晴らしい集いだったと思います。一人ひとりの小さな思いが輪になったように、ユニセフも小さな小さなひとつの思いから大きなことにつながっていくものだと思います。これからもこの小さな思いを持ち続け、ユニセフの活動に参加し続けたいと思います。(村上)

お互いに忙しいボランティアがそれぞれの持ち場で十分活動されました。いろいろな失敗があるつどいだから温かい交わりが出来るのでは? ユニセフを知っていただくひとつの機会。当日若者達の参加もあり、とてもうれしく思いました。(真鍋)

多くの方々のユニセフに対する思いを感じた一日でした。(丸谷)

良かったと思うのは平林氏のお話で、これなら例えささやかでもお手伝いしたいなと実感いたしました。まだユニセフの事が良く分かっていません。徐々にではありますが、ユニセフの基本理念・事業領域、日本ユニセフ協会の活動内容、ボランティアの皆さんがどうしているのかなどを、勉強していきたいと思えます。(白石)

ボランティア紹介



イランから留学のご主人とともに神戸へ

I Like unicef and its atmosphere very much, I would like to do all my best.

日本語もとてもお上手になりました。

「ユニセフ・ひめじオリブの会」

2006年6月に発足した「ユニセフ・ひめじオリブの会」。メンバーを対象にした月に一度の学習会やフリーマーケットによる募金活動、ユニセフグッズの頒布など、姫路市を中心に地道な活動を続けています。

毎年11月3日は姫路大手前公園で開催される「ひめじ福祉まつり」に参加。両親に手を引かれる小さな子どもや「平和について勉強したよ」と話してくれる中学生など、年に一度の出会いを大切に、このおまつりからつながるユニセフファンも増えてきました。



今年度は5/21、6/18、9/6の3回シリーズで「ユニセフボランティア入門講座」を開催予定。姫路からもユニセフ支援の温かい風がお届けできるよう、ボランティアの輪を広げていきます。

「トライやる・ウィーク」 神戸市立鷹取中学生在が ユニセフ体験学習



昨年11月6日～10日の5日間、今年で9年目を迎えた「トライやる・ウィーク」で、前年に続いて神戸市立鷹取中学校から、2年生の大久保芽美さんと山崎麗奈さんがユニセフ兵庫支部を訪れてくれました。

コープこうべ生活文化センター1階での恒例のロビー喫茶カード頒布や加古川で開催された組合員まつりに、ユニセフボランティアといっしょに参加。ユニセフ活動の体験を通して、自分さがしに取り組みしました。

各地の組合員まつりや つどいに参加

昨年11月から今年の3月にかけて各地で開催されたコープこうべの組合員まつりやファミリーフェスタに参加して、カード・グッズの頒布、ユニセフ活動の紹介などを行い、参加者との交流を深めました。



- コープ6地区組合員まつり 11月10日(金)
ニッケパークタウン加古川
- コープ3地区ボランティア大会 11月11日(土)
コープこうべ生活文化センター
- コープファミリーフェスタ 1月28日(日)
コープ活動サポートセンター西宮住吉まつり 2月10日(土)
コープこうべ生活文化センター宝塚フェスタ 3月4日(日)
コープ活動サポートセンター宝塚

たべるたいせつ フェスティバルに出展

11月18日～19日、神戸国際展示場で開催された日本生協連主催の「食」をテーマにしたイベントに、ユニセフも「経口補水塩」などの試飲や水の大切さを伝える紙芝居をしました。



研究発表会

11月21日(火)、明石市立衣川中学校で、UPP(ユニセフパークプロジェクト)のファシリテーターグループが協力し学習をすすめてきた発表がありました。

屋外での活動では、県支部のボランティアも参加しました。



第9回理事会・第5回評議員会

3月5日(月)、コープこうべ生活文化センター会議室で2006年度の兵庫県支部の、活動や決算などをご承認いただきとともに、次年度の活動にむけた活発なご意見をいただきました。タンザニアアワーの報告も行い、より一層のご協力をお願いしました。



神戸市職員労働組合から 社会貢献大賞金賞受賞

12月12日(火)、福井康代兵庫県支部事務局長が神戸市職員労働組合の「社会貢献大賞金賞」を受賞。ユニセフ兵庫県支部の活動を通じて社会貢献の大切さを広めたことが認められたものです。



最近の活動

- 2月1日～ カレンダー募金
- 2月5日(月)・6日(火) 加古川市民ギャラリーでタンザニア写真展
- 2月11日(日) ユニセフカップマラソン神戸
- 3月11日(日) チャリティーコンサート
Violin杉田恵理 & Piano渡辺愛

『ユニセフ・カードとギフト 春・夏号2007』



カード・グッズの購入をご希望の方は、お問い合わせください。☎078-435-1605

ホンジュラス便り 川本さん

2005年12月から2年間の予定で中米ホンジュラスにJICA青年海外協力隊員として滞在中の川本朋子さん(県支部ユニセフOB)。赴任直後の近況を『Wish16号』でお届けしてから1年...、ちょうど滞在期間の約半分、折り返し地点を迎えているはず...どんな様子かな?

ホンジュラスって? 皆さんご存じですか。



募金をいただきました ありがとうございます

洋上セミナーから外貨募金贈呈 11月15日



参加者の中から2名が、セミナー時に呼びかけた外国コインを持参。

南あわじ市成人式典 1月7日



新成人からのユニセフ募金の贈呈

西宮市立上甲子園中学校生徒会 1月9日
西宮市教育委員会を通じて、ユニセフ募金をいただきました。

いなみ野学園募金贈呈 1月22日
11月に行われた学園祭でのバザーからユニセフへ募金いただきました。

仁川学院小学校から「おにぎり募金」をユニセフに寄贈いただきました 2月19日
仁川学院小学校児童会では、ユニークな「おにぎり募金」活動をされています。子どもたちは、毎週金曜日におにぎりだけの弁当を持参。おかずをがまんした分を募金するという取り組みで、子どもたちの温かい気持ちとともにいただきました。



日本からのうれしいお便り、どうもありがとうございます! こうやって気にかけて下さることが何よりうれしく、励まされます。昨年はアフリカへ行かれたんですね。アフリカの大地でどんな人と出会い、何を感じられたか、早く会ってお話が聞きたい!! 私の方も、残すところあと10か月です。早いものです。相変わらず、元気に子どもたちとあそんでいます。苦労することも多々ありますが全て良い経験になると信じて残りの時間を楽しみたい。それではまた、どうかお元気で! ホンジュラス、コパルティナスより

「ユニ・ボラ塾を終えて」



ユニ・ボラ塾講師
末吉洋文
(帝塚山大学法政策学部)

ユニセフと言えば有名な国連の専門機関であり、一度は耳にしたことがある人が多いと思います。しかし、それでもユニセフの活動内容や、ユニセフが活動する国際社会のルールである国際法をある程度のレベルまで知っている人は少ないのではないかと。ましてや、国連憲章を細解したことのある人はどれだけなのだろうかという疑問がわきました。そこで兵庫県支部でボランティアとして活躍されている皆さんのスキルアップを目的として「ユニ・ボラ塾」が始まったのです。

全5回の内容は以下のようになりました。
6月17日「国連憲章の目的と原則」
7月22日「平和と安全の問題」
8月26日「人権の国際的保障」
9月16日「子どもの権利条約」
10月21日「国連改革と日本の国連外交のゆくえ」

ユニ・ボラ塾は、ボランティアの方々のみならず、一般の方にも広く開放される形で開催されました。5回という限られた回数の中で最低限の内容はお話したつもりです。ただ、まだまだお伝えしなければならないことはたくさんあると考えています。混迷する現代の国際社会を理解するには、ユニセフの活動についてのみ知っているということや、新聞やテレビから流れてくるニュースを受け止めるだけでは不十分なのではないでしょうか。

大切なのは、国際社会のルールが明記されている国連憲章等の国際法を知ることに加え、各々の国家の政治的な意図を読み取る能力です。また、その他にも積極的に世界の現状を知ろうという姿勢、彼の地で起こっている悲劇に対する想像力、そして「自分ができることはないだろうか」と考え、行動する勇気もユニセフの活動をする上においては大切であると考えます。この点、2006年12月11日に米中

西部ミズーリ州のトルーマン大統領記念図書館で行われたアナン事務総長による「お別れ演説」においては国際社会の将来にとって「地球規模の連帯(global solidarity)」が重要であると言及されました。その他、「安全保障についての共同の責任(collective responsibility)」、「人権尊重と法の支配(human rights and the rule of law)」、「各国の説明責任(mutual accountability)」、そして「多国間主義(multilateralism)」なども言及されましたが、それらは国家の仕事であって、市民と直接に関係してくるのは「連帯」です。これは国家間の連帯という意味で理解することも出来ますが、在任期間中にアナン事務総長が残した業績から読み取るならば、それは国境を超えた市民社会の連帯が念頭に置かれているものといえるでしょう。

現在は市民社会の世紀でもあり、非国家主体が活躍する時代です。とりわけNGO(民間団体)の影響力は国際関係にも大きな影響を及ぼすものです。その意味では、塾生であるボランティアの皆さんの熱心な学習ぶりには



第5回「ユニ・ボラ塾」

感銘を受けました。利他的な活動に賛同する人が増えれば、世界は少しずつ良い方向に変わっていく.....個人と個人が連帯する力の可能性について逆に私が

教えられたような印象を持ちました。ユニセフ協会の大使であるアグネス・チャンは、「人のために何かやることでエネルギーをもらえるし、人生に意味を感じ、生き生きと仕事や生活ができるようになります」と述べています(O DA新聞2006年12月号)。今後の課題は、アグネス・チャンのこうしたメッセージにあるように、他者のみならず自分にも恩恵をもたらしてくれるユニセフの活動の素晴らしさについてどれだけ多くの人に伝えていくことができるのか、ということではないでしょうか。私としましては、空いた時間を見つけてユニセフの活動に積極的に参加したいと思っています。最後に、熱心に参加して頂いた参加者の皆さんに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



保健省による保健指導(ユニセフが支援)



校庭に全員集合!! ナ・タン村の小学校で



ユニセフの支援により作られた井戸



楽しかった時間を共に過ごして...ナ・タン村の人たちと



水くみをする少女

ユニセフ・ラオスタディーツアー報告 ラオスの人たちとともに

県支部ボランティア
酒井明子



今回のラオスタディーツアーは2006年11月12日～19日の日程で行われ、メンバーは、かながわコープ、ちばコープ、名古屋勤労市民生協、京都生協、ならコープ、中山身語正宗、全国大学生協連合会、日本生活協同組合連合会、ユニセフ協会、コープこうべの11名でした。同行してくださったのは、ユニセフラオス事務所のラオス人の女性スタッフ2名と通訳の方2名、そしてラオス女性同盟の方々で、皆様の温かい心遣いで、いろんな方と出会い、とても貴重な体験をすることができました。

「メコン川は母なる川」

「あっ、これがメコン川」。ラオスで最初に訪れたピエンチャンのユニセフラオス事務所のベランダから、悠々と流れるメコン川を見ることができました。20代の頃に新聞で見たベトナム戦争の時に、川を泳いで渡っている女性と子ども の写真を思い出しました。当時、戦争のあったラオスでも、どれだけの人たちがこの川を泳いで、向こう岸のタイに逃げていったのでしょうか。ベトナム同様ラオスもアメリカからの

激しい爆撃を受け、今なお不発弾による被害が続いています。そして、残されている不発弾に対して、多くの国が資金援助や技術援助をして、回収や被災者援助にあたっています。

さて、メコン川はその長さは4020kmで、世界でも大きい川です。源流はチベット高原で、中国の雲南省を流れ、ラオス、タイ、ミャンマー、カンボジア、ベトナムを通して、太平洋に注いでいます。私たちはこのメコン川沿いにピエンチャンから車で、約8時間以上南に下って、サバナケット県とサラワン県を訪れました。今回のツアーの目的はユニセフの女性と子どもへの支援活動を視察することでした。

メコン川をわたって 人身売買の現実

メコン川をはさんで向こう岸はタイです。夜の闇にまぎれて、ボートで渡っていく若者がいると通訳の青年のルリーから聞きました。時として、仕事を勧められて、タイに行っても、全く話が違ったり、給料がもらえなかったという、いわゆる人身売買がいまだ行

われているのがラオスの現実です。私たちは人身売買や暴力、離婚などにより被害を受けた女性を保護することを目的として、ユニセフなどの支援によりできた女性と子どものための保護センター(ピエンチャン)を訪問して、女性所長さんのお話を聞き、そして、実際に、娘さん二人が人身売買の被害に遭ったおかあさんのお話をサバナケット県の村役場でうかがいました。最初は淡々と娘さん二人がだまされて、タイに働きに行くことになったいきさつや、タイでの様子を話されていたが、やがて、感極まって涙ぐまれるその姿は、身につまされました。

サラワン県の2つの村と 3つの小学校を訪問

ユニセフの支援があるナータン村では、母子健康診断やHIVエイズ教育が行われていました。村長さんからのお話でも、ユニセフの支援で井戸ができて、女性と子どもが遠くまで水汲みに行く必要がなくなり、トイレができて衛生的になり、学校のおかげで、子どもたちが明るくなったという様子がうかがえました。

一方、ユニセフの支援のまだいないムアン村では、トイレはなく、ひと家族子どもが数人産まれても、全員が育つ訳ではないという厳しい環境にあります。また、村人の中には自給自足もままならず、物乞いをして生活している人もいます。

ところで、義務教育は5年間ですが、

全ての小学校で、1年から5年までの学級があるとは限りません。ムアン村は3年までです。しかも複式学級で授業が行われている学校が多いのです。ナータン村もムアン村の子どもたちも授業料の負担はないのですが、教科書は費用がかかるためでしょうか、もっていませんでした。

次に、ユニセフの子どもにやさしいプログラムをみるために、もうひとつの小学校を訪問しました。ここでは、



水と衛生の紙芝居による授業

日本からおくれた水と衛生のキットのうちの紙芝居や歯磨きの練習をして、衛生教育が行われていました。

なお、校舎、教科書・学用品等があるかないか、また授業内容に違いがあっても、どの子どもたちも、サバイディー(こんにちは)とあいさつして、明るく迎えてくれました。

今回のツアーで、ユニセフの募金が母子保健・子育て支援活動、学校、井戸、トイレ、人身売買予防の看板、カウンセリングセンターなどに有効に使われていることはよくわかりました。しかし、ラオスの全県、さらには県のすべての村にいきわたっているわけではありません。それと同時に、世界では、まだまだ支援を待っている子どもたちが大勢います。

「夢と希望を運ぶ川」

7泊8日のツアーで、ラオスでの滞在を終えて、飛行機の窓から、だんだんと小さくなっていくラオスの地が見えなくなるまで手を振ってから、5カ月が過ぎようとしています。帰国の前に、ユニセフラオス事務所、このツアーを振り返って、私は「いろんな方と出会って、一体自分に何ができると、自分の無力さを感じましたが、今できることは、一刻も早く日本のみんなに伝えることだと思います」と言いました。

そして、この間、保育園児、小学生をふくめ、世代を超えたいろんな方たちに、ラオスのこと、ユニセフのことを話してきました。また、娘さん二人が人身売買の被害を受けたおかあさんの話を聞いたあとで、「今話を聞いて、どう思いましたか」とルリーにたずねられ、「申し訳ないと思いましたが」としか答えられませんでした。この答えを自分自身に問いかけながら、これからも、一人でも多くの人に、ユニセフのこと、ラオスのことを伝えていこうと思います。

「メコン川は母なる川 夢と希望をはこぶ川」

この言葉に思いを託し、アジア、アフリカなどすべての国が、国境をこえて、草の根でつながり、ともに歩んでいけるようになることを願います。

コープチャイ(ありがとう)。本当にありがとうございました。

ボランティア募集

世界の子どものこと知りたいと思いませんか? 学習会、イベント参加、カード頒布、事務局運営、広報など、関わり方はいろいろあります。若者たち(高校生～大学生)のグル・ブユニエも参加しています。活動を通じている人々たちとの出会いが広がります。一度のぞいてみてください。

- 学習会
- イベント参加
- カード頒布
- 事務局運営
- 広報

ボンジョルノ!! スゼンヌちゃんとししィちゃん

～ユニセフ・イタリアの取り組み～

知り合いの先生は毎年ミラノにいらっしやる。一昨年、目抜き通りのドゥオモでユニセフのチャリティが行われていたのが目に入り足を止めてみると、かわいい手作りのお人形が売られていた。全てのお人形に名前と出身地、つまりそのお人形を作った人の居住地、名前の書いてある身分証明カードをつけている。ユニセフ・イタリアのユニークな取り組みは、まず始めに、ヌードのお人形をたくさん作り、それを街の人に配って、それぞれが顔や髪を付け、お気に入りの衣装を作製し、それをまたユニセフに届け、小さいものはユーロ20(3000円くらい)大きいものはユーロ40で売られるらしい。エスニックなものやエレガントなものなど、とても個性豊かだそう。日本のハンドメイドのように毎年の取り組みのようだ。ミラノにいらっしやっていた折にはぜひユニセフショップをのぞいて見てね。



ご協力ください

ユニセフ募金 ~ご家庭で学校で職場で~
いただきました募金は、日本ユニセフ協会からユニセフ本部、そしてユニセフ現地事務所を通じて世界の子どものための支援活動に使われます。

郵便振替でお願いします
口座番号:00190-5-31000
加入者名:(財)日本ユニセフ協会
通信欄に「K1-280兵庫」とご記入ください。

会員って ユニセフ協力活動を行なう日本ユニセフ協会を、会費によって支援します。
一般会員...個人ならどなたでも

1口	5,000円
学生会員...18歳以上の学生	
1口	2,000円
団体会員...団体、法人、企業	
1口	100,000円

申込み方法についてはお問い合わせください。

緊急募金のお願い

スーダン・ダルフル緊急募金
郵便振替:00190-5-31000
通信欄に「スーダン K1-280兵庫」と記入

アフリカ緊急募金
郵便振替:00190-5-31000
通信欄に「アフリカ K1-280兵庫」と記入

中東緊急募金
郵便振替:00190-5-31000
通信欄に「中東 K1-280兵庫」と記入

ソロモン地震・津波緊急募金
郵便振替:00110-5-79500
(送金手数料免除)
通信欄に「ソロモン K1-280兵庫」と記入

【共通】口座名義:財団法人日本ユニセフ協会
募金は郵便局指定の振込用紙をご利用の上、上記口座までお振込みください。
ユニセフへの募金は寄付金控除の対象となります。



いろんなお話を聞かせていただいて...ムアン村の人たちと



笑顔の先生と一緒に!! ムアン村の小学校



日本からおくれた水と衛生のキット



伝統行事を習う子どもたち

「神戸まつりパレード」に あなたも参加しませんか

とき 5月12日(土)
ユニセフは午後1時30分スタート予定です。

ところ コース:フラワーロード～大丸前
集合時間など、くわしくはお問い合わせください。

日本ユニセフ協会兵庫県支部では、毎年、「神戸まつりパレード」に参加して、市民の皆さんに活動をアピールしています。三宮東遊園地からフラワーロードを通して元町まで約30分をユニセフのパネルやポンポンを持ってパレードします。会場いっぱいみんなで笑顔の花を咲かせましょう!



2006年のパレードの様様

ユニセフば「アンサンブル・ツヴァイ」 チャリティーコンサートを後援します

オーケストラ「アンサンブル・ツヴァイ」は芦屋を拠点とするアマチュアオーケストラです。創立15周年を記念して、チャリティー・ジョイントコンサートが開催されます。ベルリンフィル第1コンサートマスター、安永徹ご夫妻の賛同を得てこのコンサートが実現しました。演奏会の収益全額が財団法人日本ユニセフ協会に寄付されます。

とき 6月24日(日) 開場14:30 開演15:00

ところ 芦屋ルナホール **入場料** 1,000円 (全席自由)

●お問い合わせは、大西(☎090・8126・3426)か芦屋ルナホール(☎0797・31・4995)まで。

主催: アンサンブル・ツヴァイ
後援: (財)日本ユニセフ協会兵庫県支部
兵庫県、芦屋市、(財)日本テレビ放送網文化事業団

毎日新聞記者 福田隆さんによる

スーダン共和国・視察報告 「この命が消えていく」

とき 6月23日(土) 13:30～15:00

ところ コープこうべ生活文化センター
第3会議室(JR住吉駅下車、南東へ徒歩約8分)

参加費 無料[要予約。当日参加も可能です。]

講師 毎日新聞社・社会部記者 福田 隆さん



20年以上にもわたる紛争で約200万人を越す難民・国内避難民が発生したアフリカ大陸のスーダン西部・ダルフル地方。そこを訪れた毎日新聞の福田隆記者は「国際協力、まずは教育支援」と話されます。そこで見たこと、聞いたこと、感じたことについてお話しいたします。

木の下に集い、ユニセフから支援された文房具を使って勉強する子どもたち
06年7月、スーダン南部カガエタで貝塚太一氏撮影(毎日新聞希望のネットワーク提供)

スーダン写真展 ●6月22日～25日

●コープこうべ生活文化センター1階展示室

兵庫県生活創造センターフェスティバル

とき 5月26日(土) 10:00～
ところ 兵庫県立神戸生活創造センター
(JR神戸駅南クリスタルタワービル内)

ユニ・ボラ塾 恒例のユニ・ボラ塾を今年度も6月から開催します。テーマなど、くわしくは県支部までお問い合わせください。【開催予定】6月、8月、9月

開催予告

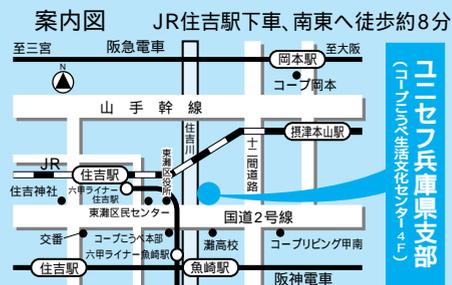
地球のステージ3 8/18(土)
会場 コープこうべ生活文化センター2Fホール
～国境なき大地 The Borderless Land～

あ と が き

「つどい」会場の一部で始まったおどりの輪がいつのまにかつながり、会場全体に広がって大きなうねりとなった・・・、テーマ「世界のともだちと心をつなごう」が心をよぎる。「支援も初めの一步をほんのちょっとした勇気で踏み出せば、それが大きく広がっていくのかも・・・」と言われたスタッフのことが心に残る。(K)

兵庫県支部ホームページ <http://www.office-bit.com/unicef-hyogo>

Wish Vol.20号(2007年春)
ユニセフ兵庫ニュース
2007年(平成19年)4月発行(季刊)
発行:(財)日本ユニセフ協会 兵庫県支部
〒658-0081 神戸市東灘区田中町5-3-18
コープこうべ生活文化センター4F
TEL 078-435-1605 FAX 078-451-9830
(平日の10時～16時)



本紙は古紙100%の再生紙を使用しています。